ふじさわネット通信

2022年6月　　第51号

発行　みんなの教育・ふじさわネット
代表　松本 一郎　TEL･FAX　0466-33-4820
ホームページ https://mkfnet.com
E-mail　info@mkfnet.com

菅前首相、県立瀬谷西高校での講演 中止に　批判殺到で

「政治的中立性の確保」求める声が短期間に大きく広がる

神奈川県教育委員会と県立瀬谷西高校は5月31日、参議院選挙公示直前の６月13日に自民党の菅義偉前首相（衆院神奈川２区）を招き、３年生を対象に政治参加についての講演会を開催することを発表しました。

6月1日神奈川新聞は、識者「教育基本法違反の恐れ」の中見出しをつけ報道。

〈 神奈川新聞 ｜ 2022年6月1日(水)〉

名古屋大の中嶋哲彦名誉教授（教育行政学）は、公示直前に特定の政治家を招いた講演会を高校で開くことについて「菅氏にとって肯定的なことが中心に語られることが想定される。支持する意図がないとしても結果としてそういう効果をもたらしかねず、教育基本法14条に反する恐れがある」と問題視。「主権者教育に取り組んできたなら、なおさらこの時期に政治的中立が疑われる行為は避けるはず。学校側の軽率な行為が、生徒を傷つけることにならないか」と危惧した。（成田　洋樹）

県立瀬谷西高等学校

同紙は6月3日、社説「県立高で菅氏講演企画　中立逸脱、中止を求める」を掲載。

6月1日以降、市民、県民、また県外からも、県教委高校教育課、瀬谷西高校へ抗議や中止を求める電話・FAX が多数寄せられました。7日、高校門前でチラシ配布、自由法曹団声明発表。瀬谷区革新懇、県教育運動連絡センター、新婦人、みんなの教育･ふじさわネットを含む70の団体および413名が中止要請（署名）。これを持って教育委員会および高校と面談し団体交渉。県教委には多くの市民団体などから中止要請が提出され､学校には130件以上の抗議電話や FAX が寄せられました。

８日午前、菅氏側から学校に「スケジュールの都合で難しくなった」と連絡があり、中止が決定。多くの市民が「政治的中立性の確保」の問題と考え、中止・見直し求める声が短時間で大きく盛り上がったことが講演の中止を実現させました。

「教育への政治介入を許さない」戦いはこれからも続きます。

【視点】政治的中立の認識甘く　神奈川新聞6月８日

県立瀬谷西高校が参院選公示目前に自民党の菅義偉前首相を招いた講演会を企画していたが、抗議殺到で状況が一変した。政治的中立が疑われる日程を組んだ認識の甘さが露呈し、容認した県教育委員会の責任も重い。

問題は講師が自民党議員だったからではなく、どの政党であっても公示目前に単独で招くことの是非にある。特定政党の政治家だけを招いた場合、その党の宣伝の場になりかねない。その党の支持が高まる可能性もあり、政治的中立に関する教育基本法第14条に抵触する恐れがある。学校側がそうした意図はないと説明しても、誤解を招く日程だったことに変わりはない。

14条は、軍国主義国家が教育を飲み込んだ戦前の反省から生まれた。教育が政治とどう距離を取るかはいまもなお課題だが、今回は同校と県教委の無頓着さが際立った。現職国会議員であっても首相まで務めた人なら公示目前であっても問題がないという感覚がどこかになかったか。教育への政治介入が続いた結果、政治との距離の取り方がまひしているように映る。

「公示目前に政治的中立に気を配るのは常識」「校内で止める人はいなかったのか」。同校や県教委の対応を疑問視する声が教育関係者から相次いだ。同校と県教委は対応に問題はなかったか点検し、実りある主権者教育の実践につなげる契機とすべきだ。

藤沢市教育委員会と懇談
少人数学級・マンモス校解消・ICT教育など

みんなの教育･ふじさわネットは、藤沢市教育委員会に、①少人数学級に向けた市のとりくみ②マンモス校解消にむけたとりくみ③ ICT 教育の現状、課題④外国籍児童の日本語指導の現状などをテーマに懇談を申し入れ、５月17日13時半からおよそ１時間懇談を行いました。当会からは５人、委員会は担当者９人が参加。

児童数　2022年5月1日		
辻堂小学校	1296人	39学級
鵠洋小学校	1203人	35学級
羽鳥小学校	1021人	30学級

※「ICT」とは Information and Communication Technology の略称、和訳すると「情報通信技術」を意味する。ICT 教育とは、教育現場での PC や電子黒板、インターネット、動画などの"情報通信技術”を活用した取り組みのことを言う。

委員会は①少人数学級について、「今年小学校３年生までが35人学級になった。順次実施し令和７(2025)年度に小学校６年生まで35人になる。」と説明。市独自の取り組みはという問いには、「予算、教室等厳しく市独自の少人数学級は考えていない。校舎老朽化の対応、トイレ、空調等の改修を進めている。」とこたえました。

②マンモス校(過大規模校)について、「適正規模・適正配置検討委員会を立ち上げ基本方針を作成し対策していく。辻堂では、宅地分譲などで子どもが増えている。正直のところ、これで行くという方針は今のところ決まっていない。」と説明しました。学区の検討についての問いには、「なかなか簡単にはいかないので時間をかけて話し合い見直していく。統廃合は地域の皆様を含めた話し合いで検討していく。」と答えるにとどまりました。

羽鳥小学校校庭のプレハブ校舎

先生が足りないことへの対策として、「昨年から大学との連携して先生を確保することに取り組んでいる。また、教員免許の未更新の人も手続きにより回復し働くことができることを広報などで知らせていきたい。」としました。

③ ICT 教育についてのやりとりから。コロナにより計画が早まり、小中とも一人一台の PC 端末使用。校内ネットワーク増強工事進行中。先生支援のために各校に週１回 ICT 支援員配置。一人一台端末の効果的な使用法を研究し、研修を実施している。ICT は教育の一つの手段。人と人との関わりが基本。学校に使い方やルールについてアドバイスしていく。

④外国籍児童の日本語指導について、日本語学習のための国際教室は小学校７校、中学校４校にある。ポルトガル語などができる専門指導員がその子の理解度に合わせて日本語の学習や進路等の支援をしていると説明がありました。

学校適正規模・適正配置検討委員会は,次の段階へ

去年までは「基本方針」→→今年度からは「実施計画」へ

5月30日、「学校適正規模・適正配置検討委員会」が開かれ、傍聴しました。当初、５名の傍聴定員でしたが、10名に増やして対応していただいていて、感謝でした。

結局9名の傍聴者でした。この検討委員会では委員の任命後、今年度のとりくみと,実施計画、会議日程が提案され、了承・決定されました。

■今後の検討委員会は7月11日、8月25日、10月27日、2月10日

■過大規模校（＝鵠洋小学校35学級、辻堂小学校39学級）と白浜養護学校の「適正規模・適正配置　実施計画」（素案）は、小部会により検討されます。校長会との確認、報告も同時にされていく中で、10月に素案がつくられ、来年の1月16日～2月16日頃、実施計画（素案）でのパブリックコメントをする予定です。

◎今年の1月に,今までの検討をした学校適正規模適正配置検討委員会の結果の答申を、教育委員会にしました。検討する過程では、学校、地域住民、保護者、子どもの意見が反映されなければならないと思います。今後、具体的に学校名や地域名など出てきて、問題が生じかねないと言う内容審議については、非公開とする旨の報告がありました。

藤沢市情報公開条例6条第3項　（抜粋）
＜非公開情報＞
「公開することにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ，不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え，若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの」

誠実な質疑・応答　うれしくなりました。・・・教育委員会傍聴記

みんなの教育・ふじさわネットは、会としても藤沢市教育委員会を傍聴し続けています。2020年（中学校教科書採択）の前後から、教育委員会の議論が形式的な、内容の乏しい、書類を読み上げるだけのようなものから、市民感覚の自由な議論が行なわれるようになったと実感しています。（←既報　2022年3月ふじさわネット通信第50号参照）

今回、4月の教育委員会定例会では、「長後小学校と高谷小学校のトイレ改修」と、「白浜養護学校の空調整備更新及び新設工事（機械）について空調設備更新の内容」の議案について、教育委員からそれらの内容への質問がありました。学校施設課長は詳しくは「手元に資料がありませんので、別途お答えをさせていただければ」と答弁しました。私たち、傍聴している市民にも、次回、教えていただけるのか、心配になり、さっそく次回の教育委員会定例会で、傍聴者にわかるように説明をしてほしい、と要望書を教育委員会に提出しました。１校のトイレ改修には1億以上の予算がついています。また空調工事などには、今年度だけでも9000万円を超える予算（総予算は3億円以上）です。市民には丁寧に説明する義務があると思います。その結果、5月の定例会で冒頭、説明がなされました。

教育について審議する際、教育委員には保護者、市民のまっとうな感覚、目線を感じています。教育委員の、まっすぐな感覚で「わからないので教えて下さい。」と丁寧な説明を求める姿勢に共感します。また教育委員会の担当の方々もその場で誠実に答えようという姿勢がみられ、傍聴していてうれしくなります。

〈 映画・研究大会･講演会のお知らせ 〉

（前川喜平）
道徳を決めるのは人間の良心であって国家ではない。歴史の真実を追求するのは学問であって政治ではない。愛国を標榜する政治家たちによる教育と学問への不当な支配。これを放置したら日本は1945年以前に戻ってしまうだろう。

映画「教育と愛国」（公式WEBサイトより）

2017年度ギャラクシー賞・大賞を受賞した話題作が、最新取材を加えついに映画化！
2017年にMBSで放送された番組『映像‘17 教育と愛国～教科書でいま何が起きているのか』は、放送直後から大きな話題を呼び、その年のギャラクシー賞テレビ部門大賞、「地方の時代」映像祭では優秀賞を受賞した。

2019年に番組内容と取材ノートをまとめ書籍化（岩波書店刊）。2020年には座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバルで上映もされた。これだけ長く注目され続けるのは、多くの人にとって教科書問題が身近であり、またこれからの社会を考えるうえで「教育と政治」の関係が重要であるという証左ではないだろうか。

映画化にあたっては、いくつもの壁にぶち当たりながらも追加取材と再構成を敢行し、語りは俳優・井浦新が担当した。　いまあらたに誕生した映画版『教育と愛国』がいよいよ劇場公開。

☆横浜シネマリン　6/4（土）～6/30（ホ）上映中

学び合い　語り合い　豊かな教育実践を

第56回神奈川夏の教育研究大会

主催：神奈川県民間教育研究団体協議会　後援：藤沢市教育委員会

2022年 8月21日(日) 9:30～17:00

湘南学園小学校

夏の講演会

講師：佐藤隆さん　都留文科大学教授
（教育科学研究会・副委員長）

日時　7月23日(土)13:30～16:00
場所　藤沢市民会館　第二展示ホール

みんなの教育･ふじさわネットのホームページ

当会のホームページ(HP)を開設して２年。上記の名前の検索で開きます。**mkfnet.comと入力**、右 QR コードの読み取りでも勿論開きます。

教育委員会の会議録と資料を準備中。2002年からの会議録と次第、2009年以降は議案などの資料も掲載します。データベースです。もうすぐ閲覧 OK になります。